

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

釧路公立大学

出前・議会報告会開催概要

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

日時：平成 25 年 10 月 28 日（月）
16 時 30 分～18 時 10 分

会場：釧路公立大学 大講義室 2

議会報告会開催概要

■ プログラム

- 開会
- 開会あいさつ
 - ・ 釧路市議会 黒木 満 議長
- 定例会の報告
- 質疑応答・意見交換
- 閉会あいさつ
 - ・ 釧路市議会 月田 光明 副議長
- 閉会

開催日時	平成 25 年 10 月 28 日（月） 16：30～18：10
開催場所	釧路公立大学 大講義室 2
参加人数	学生 271 人
出席議員	黒木 満議長 月田光明副議長 高橋一彦議員（議会運営委員長） 菅野 猛議員（総務文教常任委員長） 畑中優周議員（経済建設常任委員長） 秋田慎一議員（民生福祉常任委員長） 土岐政人議員（石炭対策特別委員長） 松橋尚文議員（広報特別委員長）
意見交換の内容	問（下山先生）：市議会議員としての在職年数と、なぜ議員になろうと思ったのかを教えてください。 松橋：平成 19 年度に当選し、6 年半が過ぎた。以前はサラリーマンだったが、公明党青年部として活動しており、党より打診があり立候補した。 高橋：議員になって 3 期目で 12 年。託児所を経営していたが、市政に対する疑問があった。平成元年度から中川昭一元衆議院議員の釧根の秘書となり、自分にできることはないかと考え、市議となった。

月田：平成5年度に当選し、まる20年経った。松橋議員と同じく、先輩からのスカウトを受けて立候補した。

黒木：15年目になる。平成2年度から武部勤元衆議院議員の秘書を務めていた。国会議員を間近に見ており、後援会の後押しもあって、平成9年度に立候補した。

菅野：平成7年度に音別の町議会議員となってから、18年目となる。地域の人口減や高齢化による閉塞感の打開を目指し、議員となった。

畑中：平成8年度に立候補してから17年目を迎えた。霧フェスティバルのボランティア参加から、そこでのスカウトがきっかけ。

秋田：松橋議員と同期で、今年で6年目になる。他の公明党所属議員と同じく、党からの話をいただいて立候補を決意した。

土岐：平成13年度に初当選し、12年目になる。当時の本州製紙での組合活動を経て、先輩議員の後を継ぐ形で議員となった。

問（下山先生）：普段はどのような仕事をしているのか。

松橋：大方政務調査、あるいはさまざまなプランや案件の関係書類を読むことが多い。他にも町内会や消防団のような地域活動、各種講演会への出席などがある。

高橋：松橋議員と同じで、プラスして自分の選挙公約に関する研修会や視察に行っている。自分の後援会活動も行っている。

月田：議員以外の仕事はないが、関わりを持っている団体との打ち合わせや役員としての会議参加、党员としての仕事がある。副議長として、公務への代理出席もある。

黒木：議長の公務として、議会全体の打ち合わせ、市職員からの相談、各種会議や行事への出席などがある。議員としては自分の公約に基づく自己研さん、地域活動への参加がある。

菅野：議会での質問のためにも、自己研さんや情報収集が一番大きい。他にも市が開催する行事への案内があれば、出席する。

畑中：他の議員と同じ。他に町内会長として相談を受けたり、最近では葬儀委員長を受けたりすることも多い。

秋田：市民からの相談を受けたり、市政に関連する調査活動、市

<p>の交通安全指導員や町内会長の仕事、党員活動を行っている。 土岐：地域の要望を受けて、市の担当部署に要望を伝えることが大きい。時間があるときは資料整理などを行う。公立大学事務組合議会や釧路広域連合議会の議員も務めている。</p>
<p>問（下山先生）：議員以外に別に仕事を持っている人はいるか。 一同：2人ほどいる。</p>
<p>問（学生）カジノ誘致についてはどのくらい話が進んでいるのか。 畑中：議員有志でIR議連（特定複合観光施設研究議員連盟）を立ち上げており、自分は会長を務めている。現在国会でカジノ法案が審議されており、これが通れば4月からカジノ法ができるだろうという流れになっている。国としては日本全国に3カ所か4カ所ほど複合施設をつくると言われているが、北海道では釧路、苫小牧、小樽が手を挙げている。釧路市の場合、阿寒湖温泉地区に誘致するという案があるが、今はカジノ誘致による影響を議論しており、勉強会やIR議連においてさまざまな意見を出し合っているところである。個人的には、阿寒湖畔に人を呼びこむための、複合施設のアイテムの一つがカジノだと考えている。</p>
<p>問（学生）：釧路市民球場において、プロ野球の試合が開催される見通しはあるのか。 菅野：市民球場の改修については、議会でも何度か質問がされている。現在行っている改修は、試合の誘致とは別に、危険な箇所に対する維持補修である。球団側としては、今の球場の施設のままではなく、投球練習場の設置などの大きな設備改修をしなければ開催が難しい、との話を聞いている。現在は市の財政的に厳しいが、維持管理上必要な部分から少しずつ改修をしながら、一方で球団に対して試合開催のお願いをしていくことになると考えている。</p>
<p>問（学生）：駅前整備について、旭川市は力を入れているが、釧路市は何か取り組んでいる事業はあるか。</p>

畑中：駅の再開発には総額 300 億円ほどかかると言われている。
半分は J R、残りを国や市などが持つことになる。市長の公約に駅周辺の再開発があるが、なかなか進んでいないのが現状である。駅周辺の再開発は、議員も必要なことだと認識しているが、現状では難しいと思われる。

問（学生）：美原インターチェンジは、帯広方面に向かうときはどの道路とつながるのか。

畑中：道東道につながる。

問（学生）：学力問題について、検討中の案があれば示してほしい。

月田：市議会議員で学力議連（釧路市議会基礎学力問題研究議員連盟）を立ち上げている。学力が低い北海道の中でもさらに釧路市は低い方であり、大変厳しい状況にある。これを何とかしようということで、学力議連のメンバーで昨年、基礎学力保障条例を作り、本年 1 月 1 日から施行となった。だが、条例ができただけで劇的に状況が変わるというものではない。学校・教育委員会・家庭・地域が、それぞれ条例で定めた責務を果たすことが基本だと思っている。もう一つは、P D C A サイクル（業務を効率的に運ぶ手段の一つ）を確立していくこと。釧路市はようやくサイクルが始まったばかりなので、これをちゃんと回していいスパイラルにしていくため、議会も監視をしていきたい。

問（学生）：美原インターチェンジ整備に関連して、柳橋通についてはどういった内容の対策をしているのか。

畑中：公立大学から美原方面に向かうと、道路が二車線から一車線に狭くなる場所がある。ここを同じ広さにするよう要望している。それは、インターチェンジの平成 27 年度供用開始以降の、付近の交通渋滞の緩和をはかるためである。

問（学生）：釧路市は生活保護の受給率が高い。若者の受給者が多くなっているほか、海外からの受給目当ての移住や薬物依存者の問題も耳にしている。これらの対策はあるか。

	<p>秋田：雇用がないことで若者の受給者が増えているので、釧路市では自立支援プログラムを進めている。また釧路では、外国人が受給のために移住しているという実態はないととらえている。薬物の実態については承知していない。</p>
	<p>問（学生）：議員を辞めた後に、元の職業に戻ることはあるのか。 高橋：今はそういった人はほとんどいない。政党に残る人はいるかもしれない。ちなみに、以前は議員を12年勤めたら議員年金がもらえたが、現在はなくなっている。</p>
	<p>問（学生）：衆議院議員秘書の仕事とはどのようなものか。 高橋：就職先から飛行機の切符手配までさまざまなものがあつた。中川昭一元衆議院議員は、鉱業や水産業に分野において、釧路地方とも関係があつた。 黒木：武部勤元衆議院議員の釧路根室管内での担当秘書を務めていた。管内のいろいろな懸案事項の吸い上げや、管内に議員が入った時の対応など、細々としたこと全てが仕事としてあつた。</p>
	<p>問（学生）：芦野5丁目近辺には防災無線がないのか。 秋田：以前は芦野地区まで津波がこないという想定だったため、海岸線にしか無線が無い。しかし現在は、500年・1000年間隔の津波を想定し、ハザードマップも見直しているので、順次設置を求めていく。</p>